

週報2023年3月12日

■教会標語聖句

望みを抱いて喜び、患難に耐え、
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ人への手紙12章12節



シオン教会信仰指針
「祈りに励む教会」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
北九州シオン教会

牧師: 山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2023年3月12日

オルガン: 力丸勝子師

司会: 吉武姉 献身の祈り: 小田姉 メッセージ: 力丸嗣夫師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 235「罪 重荷を除くは」	
祈 禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう! *	
賛美	新聖歌 111「生くる甲斐もなしと」	
献身の祈り		小田姉
賛美	新聖歌 302「恵みある主」	
賛美	新聖歌 198「GOD BLESS YOU」	
聖書箇所	マタイの福音書 4章 1-11 節	
説 教	「人生三つの誘惑」	
祈 禱	「応答の祈り」	
頌 栄	「主の祈り」	
祈 禱		力丸嗣夫師

交わりの三省

- * 互いに愛し合っていますか
- * 互いに赦し合っていますか
- * 互いに祈り合っていますか

『人生三つの誘惑』

マタイによる福音書:4章1節～11節



交わり	①	互いに愛し合っていますか。
の	②	互いに赦し合っていますか。
三省	③	互いに祈り合っていますか。

マタイによる福音書:4章1節～11

- 1節: さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。
- 2節: そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。
- 3節: すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、

①

この石がパンになるように命じなさい。」

- 4節: イエスは答えて言われた。『人は、パンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。
- 5節: すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、
- 6節: 言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じてその手にあなたを支えさせ、あなたの足が石に打ちあたることのないようにされる。』とも書いてありますから。」
- 7節: イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」
- 8節: 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世の全ての国々とその栄華を見せて、
- 9節 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」
- 10節: イエスは言われた。「引き下がれサタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。
- 11節: すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが、近づいてきて仕えた。

神の御子イエス様とサタンの誘惑

イエス・キリスト様は、創造者です、“全能の神ヤーウェ”即ち、三位一体(父・御子・御霊)の神の、第二位のお方(神の御子)なのです。もう少し踏み込んで言うと、**人の姿を執られて、世に顕われた(遣わされた)お方**です。人間(人)と同じ誕生の経過を辿られて、また同じ成長過程を経られて、律法を学ばれ、神殿で父なる神に礼拝を捧げ、更には、バプテスマのヨハネから、水のバプテスマを受けられたのです。その時、イエス様の

②

上に聖霊が鳩のように降り、天からの声がありました。『**これは私の愛する子、これに聞け!**』と。

正にイエス・キリストは、神の御子なのです。それなのになぜ？ 今日お読みいただいた聖書記事のように、このお方が、サタンの誘惑を受けねばならなかったのでしょうか。

それは、**神の御子の受肉!** と言う神の御計画中最も重い、節理の御業なのです。教理的に、**“神の御子の受肉”** と言う項目は、最も大きなご計画なのですが、解説としては、《**永遠なるお方、造られたお方ではなく、全ての物を御創りになられた“創造主”なるお方が、自ら、肉の像=人としての姿=を執られて、この世に顕われた!**》…と言う事なのです。》しかしこの解説の中に、次の事を、想定されるのでしょうか。即ち神の御子が、仮令、人の像を執って来られたお方だとしても、

- * “???…サタンの誘惑をお受けになられるのだろうか…???”
 - * “???…当時のメシヤ待望の人々からさえも“メシヤ”だと気付かれないまま、働きを展開されねばならなかったのだろうか…???”
 - * “???…なぜ、神とつなげられる” “バプテスマ” を、お受けにならなければならなかったのでしょうか…???”
- 実はこの三点は、《**神の御子の受肉**》と言う永遠の奥義の中心となる出来事なのです。ピリピ人への手紙の中にこう書いてあります。

- * 『**キリストは、神の御姿であられる方なのに、神の在り方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿を取り、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質を持って現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。** ピリピ人への手紙 2：6～8

主が直面したサタンとの対決 (誘惑)

1. **第一の誘惑は** ⇒生きるために生じる生活上の全ての必要に関する健康・経済・衣食住・家庭・子女教育・老後…
「あなたが神の子なら、この石に、パンになれと言いつけなさい。」
この象徴としての、命をつなぐための“食べる”ことへのサタンのまことしやかな助言?です。40日40夜断食されたイエス様は、人間の生の限界を超えた飢餓状態だったのです。しかも、そこは荒野のただ中です。命を保って、メシヤとしての使命を果たさねばならないお方ですから。肉の体で生まれられたイエス様は、人と同じ限定された中で生きるお方なのです。神の御子だから、この厳しい試練を生き抜かれたのではないのです。イザヤも、エレミヤも、モーセも・エリヤも…パウロも・ヨハネも…神と語り、神からの導きを求めて、全身全霊をもって、主との交わりを愛し、その中に、霊に結ばれることを求めて、祈りと黙想に最高の慰めと力とを求めたです。彼らを福音の使命に生かしたのは、栄養満点の食や健康ではなく
『人は、パンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による。』 マタイ福音書 4：4 このみ言葉です。

2. **第二の誘惑は** ⇒人間であれば誰もが持っている、名誉・成功・名声・支配欲…等々
『**国々の権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。もし私を拜むなら、全てをあなたのものとしましょう。**』
イエス様が、この世に人の姿を持って来られたのは、人々をサタンの支配から解放するため、人が生まれながらに負ってきた罪・人生の中で犯してきた罪を、ことごとく神の赦しの祭壇に携えて、帳消しにし、全ての人に、神の創造の初めに用意された永遠の命を回復するためでした。サタンは地上の全ての権

威を持っていましたから、自分がこの世界の支配から、手を引く…と言う(まやかし)、言葉で、イエス様に挑戦してきたのです。これは正に、宇宙大のサタンの挑戦でした。主はこれに対して、『**あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えなさい**』と書いてある。と、応えられたのです。

私たちの普通の日常生活の中で、全ての人が社長になるわけではないし、有名大学に合格するのでもないし、名を残すほどのものを求める…と言う事も、別に望まないかもしれません。けれども褒められること、有名になること、注目されること、自ら満足いく成果を得ること、周りの人々の中で、覚えが良い事…等々、本能的に、その様になることは望ましいし、無意識に求めてやまないのです。そのように知らずうちに、競争心から、焦り・苛立ち・失望感・劣等感・羨望…これらは、権威と栄光を、(ご近所・兄弟・友人・クラス・会社・社会のあらゆる組織)…これらの中で、少しでも得たいとの欲求から生まれる、心の闇いとなるのです。絶望・失望・孤独・苛立ち・自己嫌悪…は、そこからやってくるのです。

3. 第三の誘惑は⇒ また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の頂に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから飛び降りなさい。『神はみ使いたちに命じてあなたを守らせる。』とも、『あなたの足が地に打ち付けられることのないように、彼らの手で、あなたを支えられる。』とも書いてあるからです。

この第三の誘惑は、人が人生で遭遇する様々な危機に関して、それから安全でありたい…と願い、安全祈願をすることで、危機的な事態から無縁であるように…、忌まわしい《死》から病から解放されたいと言う願望を目的に信仰を求め、その中に安住することで、自らの心の深いところにある願望を、満たして

⑤

安寧な人生を送ろうとするのです。

イエスは答えて言われた。『**あなたの神である主を試みてはならない。**』とされている。

改めて整理してみると、私たちの人生には、次の三つの大きな願望のゆえに、宗教が発達を遂げたと言えます。即ち、様々な宗教は、この様な人間の願望の隙間を埋めるために、生まれてきたのです。

聖書の教えは宗教ではなく、創造主からの“福音”なのです。

- ① 衣食住・生活上のあらゆる充足 (安全祈願)
- ② 人生の誉れ(祝福)・成功 (合格・成功祈願)
- ③ 精神的健康と身体で健康で安全な日々 (病・快癒祈願)

今日の時代にはこのどれもが、切実に求められるものです。

…戦争・地震・不安定な経済・家庭の崩壊・天変地異…

宗教的意味合いからでなくとも、“終末”と言う言葉が、真剣に論じられる昨今ですね。その様な中で、この世に生を受けた私たちが、求めるべき一番大切なものはいったい何でしょう。

神が世界を創造されてから今に至るまで、人の世界は、神の愛に応える、平和と愛と祝福に満ちたものとなっているとは言えません。イエス・キリスト様が、あなたを、私を、神の創造の手に立ち返らせるために、歩いてくださった十字架の贖いの道をたどる道筋で、最初の妨害をもって、サタンはチャレンジしてきたのです。

知っておいてください。この妨害は、手を変え品を変えて、人々の心を攪乱するものなのです。この攪乱に対して勝利する道は、サタンがイエス様にチャレンジした(しかも、神の言葉“聖書の中からの)言葉のあとに、語られた主イエス様のお言葉(赤字)に注意して下さい。

サタンは巧妙に、神の言葉を、あえて乱用して、あたかも神の御心であるかのような迫りをするのです。

わたしたち(クリスチャン・ノクリスチャンを問わず)創造された全ての人の地上での唯一の生きる目的は、**神の創造の目的に適った、十字架による新創造の魂となる事です。 アーメン**

⑥